

薬害デジタルアーカイブズの 基盤構築に関する総合研究

藤吉圭二(追手門学院大学社会学部)

第16回薬害を学び再発を防止するための
教育に関する検討会

2017年1月16日 厚生労働省共用第8会議室



0. 本日の報告

1. 簡単な自己紹介
2. ふたつのA
3. 今年度の進捗状況
4. 今後の課題

1. 簡単な自己紹介(1)

- 2015年3月まで高野山大学(和歌山県)に勤務
- 高野山に所蔵される歴史的資料(古地図、古文書など)のデジタル化とウェブ公開に従事(2000年代)
- 「人々の共有財産としての歴史資料アーカイブズ」という視点から研究に着手

1. 簡単な自己紹介(2)

- その後、歴史資料に加えて公文書の保存・公開・利用にも視野を広げる。
- 各国のアーカイブズ機関の調査に従事
- オーストラリア(国立公文書館、ヴィクトリア州公文書館、戦争記念館、移民博物館など)、ハンガリー、スウェーデン、アメリカ、インド、台湾の国立公文書館(相当機関)

1. 簡単な自己紹介(3)

- 「その場に行かないと見られない資料をウェブ公開することで、人々にとって身近なものとする」ことに加えて、
- 「人々の生活にかかわる公文書(行政情報)をウェブ公開することで、知る権利に基づく国民の政治参画を促す」ことも研究課題に設定する。

2. ふたつのA(1)

- アーカイブズとアカウントビリティ
- アカウントビリティ: 説明責任
- どこまで「説明」したら責任を果たしたと言えるのか。

- ...相手が納得するまで？

2. ふたつのA(2)

- その時点で定められていた法律やその他の規則に基づいて業務が処理されていれば(行政のレベルでは)説明責任は果たされる...と考えるのがいいのではないか。
- 法律や規則に不具合があれば行政から立法に投げかえして見直しを求めることが重要。

2. ふたつのA(3)

- その時点でのルールにのっとって業務が処理されていたことを事後的に証明するための資料が行政(府の)文書。
- ルールから外れた処理が見つければ、それは批判の対象となる。
- →政治家や官僚の「悪事」を暴くための証拠書類という見方に通じる。 ...しかし...

2. ふたつのA(4)

- ルールにのっとして適切に処理したにもかかわらず不具合が生じることはある。
- この時にこそ、アーカイブズの役割が重要。
- 「きちんとやったはずなのにどこがまずかったのか」←失敗を踏まえて「よりマシな処理」のためのルールを追求する。
- 「下手人さがし」に終わらないアーカイブズの活用

3. 今年度の進捗状況(1)

- 作業場所を東京(法政大学大原社会問題研究所)から大阪(大阪人権博物館)に移動。
- 大阪人権博物館:薬害根絶フォーラムや企画展示「薬害を語り継ぐ」などを実施。
- 関係者の高齢化による散逸が危惧される資料を中心に博物館に移管し調査と整理。

3. 今年度の進捗状況(2)

- 中性紙箱への詰替えがすみ仮保存される資料群。



3. 今年度の進捗状況(3)

- ファイル(簿冊)ごとの目録作成はほぼ完了し、この先、ファイルに綴じられている資料(アイテム)一点ごとの目録作成にとりかかる準備がほぼできている段階。

4. 今後の課題(1)

- ファイル(簿冊)ごとの目録作成はほぼ完了し、この先、ファイルに綴じられている資料(アイテム)一点ごとの目録作成にとりかかる準備がほぼできている段階。
- 収蔵庫には限りがあるので、各被害者団体が独自に目録作成に取り組めるようワークショップなどを実施予定。

4. 今後の課題(2)

- アイテム(一点ごとの資料)レベルの目録作成の実施
- この目録と対応する資料の撮影・画像化と、個人名などセンシティブ情報のマスキング
- 目録と資料画像のリンク設定を進め、検索可能なデータセットを試験的に構築

4. 今後の課題(3)

- 「薬害」にかかわるアーカイブには、
- 薬害被害者団体の所蔵する資料、
- 薬品の開発、認可等にかかわる行政府の資料、
- 薬品の開発、販売に携わる製薬会社の資料、

...

4. 今後の課題(4)

- 以上がそろふことで、薬害の発生と被害を最小限にとどめるだけでなく、
- 万が一でも発生した場合には、被害者に対してどのようなケアが求められるかをより深く知る、
- そのための手がかりとなることが期待される。



ご静聴ありがとうございました。
ひきつづきのご支援をお願いいたします。
K-fujiyoshi@otemon.ac.jp